

地震による火災はこれで防ごう ～感震ブレーカー～

総務局危機管理室危機管理課事業推進担当係長
 亀若 智洋

◆感震ブレーカーとは

皆さん「感震ブレーカー」という物をご存知でしょうか？停電した時にレバーを上げるブレーカーのこと？と答える方が多いかもしれませんが、多くのご家庭にあるブレーカーは「漏電ブレーカー」のみで、「感震ブレーカー」もついているご家庭は、まだごくわずかです。

感震ブレーカーとは、一定以上の揺れを感知すると自動的に電気を止める器具のことです。

なぜ地震の時に自動的に電気を止める必要があるのか、疑問に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、感震ブレーカーは、地震による火災の発生を未然に防ぐために非常に有効な器具です。

◆地震火災とその原因

地震による被害を大きくするものの一つが、地震に伴う火災の発生です。関東大震災では犠牲者約10万人のおよそ九割が火災によって犠牲になったと言われています。

横浜市が平成24年度に行った地震被害想定調査によると、横浜市内では最大77,700棟の建物が地震火災で焼失すると想定されています。

そしてこの地震火災の多くが電気に起因する火災と言われています。なぜ地震火災の多くが電気に起因する火災なのでしょう。

例を一つ挙げますと、大きな地震が起きると停電が発生することがあります。しかし、この時ブレーカーは落ちていません。また、地震に伴って家にある家具や家電が倒れることがあります。その中には電気ストーブや電気ポット、オーブンレンジなど高い熱を発生する器具も含まれます。

もし、こうした器具が倒れたまま、停電が復旧した場合どうなるのでしょうか？倒れる直前まで実際に使用していた場合、復旧に伴ってそのまま器具も作動してしまいます。そして、近くの衣類等に火がついてしまう、といったことが起きる可能性があるのです。

そのため、大きな地震が起きた際は自動的に電気を止めることが必要であり、自動的に電気を止めるためには感震ブレーカーを設置することが非常に有効です。

◆感震ブレーカーの種類

感震ブレーカーにもいろいろな種類があります。漏電ブレーカーのように分電盤にあらかじめ内蔵されている感震センサー内蔵型(図1)、既存の分電盤に感震センサーを電気配線で接続する感震センサー接続型(図2)、揺れによって落ちる重りの勢いやバネの力で主幹ブレーカーのレバーを落とす簡易型(図3、4)などです。

価格も1台数万円の物から1個数千円の物まで様々で

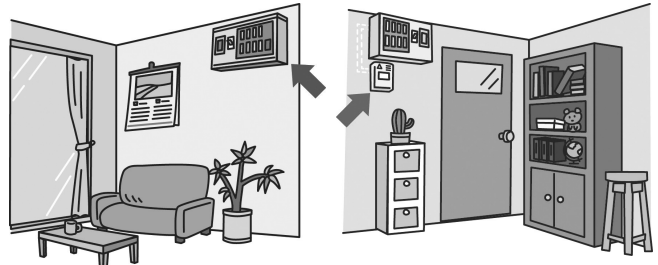


図1

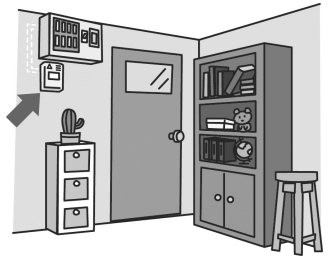


図2

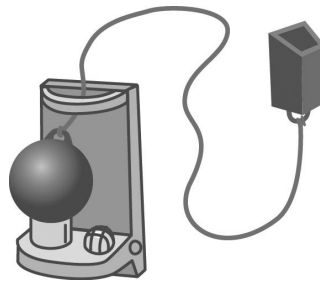


図3



図4

す。感震ブレーカーに求める機能や費用に応じて選ぶことができます。

感震センサー内蔵型や感震センサー接続型は電気工事が必要になるため、取付けを検討される際には、まず感震ブレーカーを取り扱っている電気工事店にお問合せください。簡易型はご自身で設置できる製品がほとんどです。最近ではホームセンターや家電量販店でも購入できるようになっています。

◆本市の取組

本市では感震ブレーカーの普及のために、木造住宅密集地域などにある住宅への感震ブレーカー設置費用の一部を補助する取組を、全国に先駆けて平成25年度より行っています(平成28年度の補助申込受付は終了)。平成28年度からは自治会・町内会などの町の防災組織向けに、簡易型の感震ブレーカーの設置補助を行う取組も始めました。また、防災フェアでのブース出展など、感震ブレーカーを知ってもらうための広報活動も行っています。

感震ブレーカーを設置することは、ご自身の家、財産を地震火災から守る備えになるとともに、地震火災の発生件数を抑え、隣近所への延焼の危険性を減らすことで、地域全体の地震火災の被害を減らす事にもつながります。ご自身と地域の備えのために、ぜひ感震ブレーカーを設置しましょう。